

## β. DMP 末期患児の栄養に関する研究

国立療養所西別府病院

浅井和子 城戸美津子  
中嶋俊郎

### 〔目的〕

当院は、入所患児71名、平均年齢15才で、機能障害度Ⅱの6からⅢの10までが、80%をしめている。その中の約5割が、半介助、全介助にて食事摂取を行っている。『デュシヤヌ型平均身長体重』による、個々人の肥瘦度は-20%以下のるい瘦傾向者が18名、その中で現在体重曲線が、ゆるやか又は、ごくゆるやかに下降を示しているものが1名であった。このような患児の重症化にともない、栄養強化の必要な患児を早期に見出し、適切な栄養方法を考慮し良好な経過へもって行く努力をしたい。

### 〔対象〕

この症例は先天型、女性例、10才で、入所以来、体重はゆるやかに上昇していたところ、昭和51年7月年齢15才で、食事が1回に200gをこすと、摂取約2時間後、嘔吐するという状態になり、平均体重±0より、毎月0.5kg～1kgの体重減少があった。

### 〔方法〕

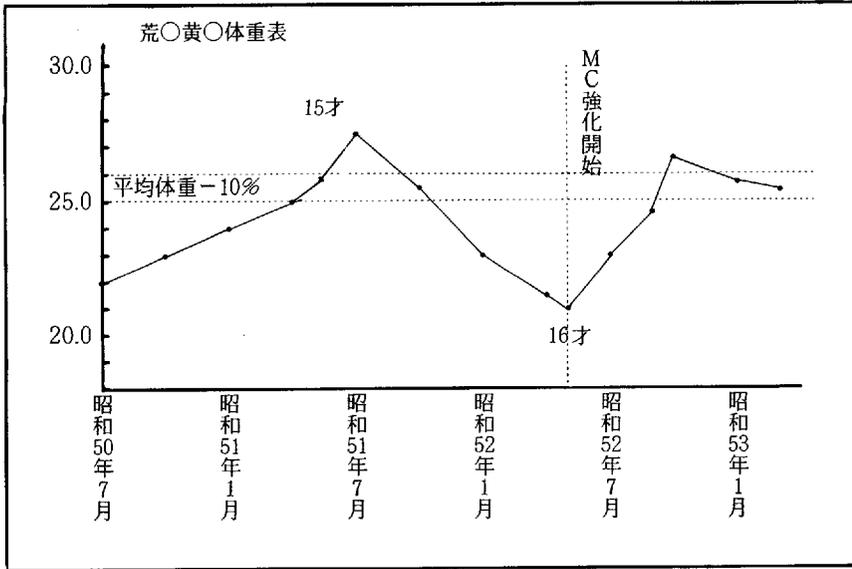
昭和52年5月上旬より、ミンチ食を1回100g～150gにおさえ、1日にMCT末75g、アミココ30g、卵黄2個、砂糖30gを3回に分けてのませ、嘔吐の状態を見ながら少しずつミンチ食の量をふやしていきました。1日の栄養量は1300cal～1400cal、蛋白45g～55g、脂肪55g～65gであった。

### 〔結果〕

5ヶ月経過ののち体重は5kg～6kgの増加を示し、減少をはじめる前の体重にもどった。そこで10月下旬より、MCT末25g、アミココ10gを中止し、現在3ヶ月経過し、体重25.5kgで、今後も25kg～26kg、平均体重の-10%を保ってゆくよう努力したい。

### 〔まとめ〕

機能障害度、Ⅲの10、るい瘦-30%以下のおよそ死亡前6ヶ月と思われる。重症末期患児の栄養は、早期のおよそ15才以前に平均体重の-15%以下にならないよう、注意すべきであろうと考えられるので、これまでの基準投与をあらため早期に適切な、栄養方法を考慮し、個々人に合わせて食事を工夫し改善してゆきたい。



## 14. ジストロフィーマウスにおける筋疾患の発現、進行と栄養条件との関連

国立栄養研究所

山口 迪夫 真田 宏夫

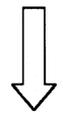
宮崎 基嘉 田村 盈之輔

弘前大学医学部 木村 恒

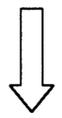
### 〔目 的〕

これまでの研究により、リノール酸エチル 0.5を添加したビタミンE欠乏精製飼料をジストロフィー (dy) マウスに給与したところ、数日から3週間にかけて死亡する例が多く、これがE添加によって減少させることを得、さらに dy マウスE欠乏区において高度不飽和脂肪酸含量が低下し、オキシアミノ酸、N-メチルヒスチジン/ヒスチジンが低下することを明らかにしたので本年度は同様な条件でdy マウスの溶血試験と筋肉、血漿中のクレアチンホスホキナーゼ、アルドラーゼの活性度について実験を行った。

### 〔方 法〕



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 〔目的〕

当院は、入所患児 71 名、平均年齢 15 才で、機能障害度 の 6 から の 10 までが、80%をしめている。その中の約 5 割が、半介助、全介助にて食事摂取を行っている。『デュシャヌ型平均身長体重』による、個々人の肥瘦度は - 20%以下のるい瘦傾向者が 18 名、その中で現在体重曲線が、ゆるやか又は、ごくゆるやかに下降を示しているものが 1 名であった。このような患児の重症化にともない、栄養強化の必要な患児を早期に見出し、適切な栄養方法を考慮し良好な経過へもっていく努力をしたい。